

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第5回高松市創造都市推進懇談会（U40／2期）
開催日時	平成27年6月8日（月） 18時30分～20時30分
開催場所	市役所13階 大会議室
議 題	1 空き家・空き店舗・空地などの活用について 2 地元愛を育てる！たかまつこの育て方
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	甘利委員、鎌田委員、児島委員、高島委員、田中委員、谷委員、中筋委員、西成委員、英委員、人見委員、広野委員、眞鍋邦委員、眞鍋康委員、森委員、山家委員、若宮委員
職 員	佐々木、平田、溝渕、塩田、川西、志度、山下、松良、末澤、中西、永木、石川、木村、中村、内海、今井、藤本、金坂、杉野、
傍 聴 者	2人（定員 5人）
担当課および連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411

審議経過及び審議結果

- 1 開会
佐々木課長から今後の進め方について説明
- ・これまでの振り返り
 - ・6・7・9月の3回通しで、議論を深める。
 テーマ1 空き家の活用についてのアイデア出し
 テーマ2 こども・教育について
 - ※上記2テーマは、前回の高松に若者を惹きつけるセールスポイントで出たキーワードから抽出
 - ・公開U40について
 上記テーマに限らず、今までの議題も取り上げる。
- 2 テーマ1 空き家・空き店舗・空地などの活用について
- 【くらし安全安心課山下課長から】
- ・空き家対策の総合窓口がくらし安全安心課
 - ・法の全面施行（平成27年5月26日）→危険空き家の除却などの代執行→行政の財政負担大
 - ・所有者の適正管理を促す&活用で、危険空き家を増やさないように。
 - ・県の空き家バンクの活用も課題になっている。
 - ・今年度かけて、除却と活用の両輪について、条例・計画等を作っていく予定。

審議経過および審議結果

四国食べる商店・・・自分の家の空き家を活用し、食べる通信のリアル店舗に。

空き家対策は、「ハコをどうするかより、中身（コンテンツ）をどうするか」が大事。箱の整理・再生が進んでも、使う人がいないとだめ。ハコとコンテンツを分けて考えるべき。

県の空き家バンクはなぜうまくいっていないのか？

知られていない。

宅建協会と不動産協会の2本立てになっていて、わかりにくい。

契約件数は年に数件らしい。

逆に、小豆島の空き家バンクはすごく活用されている。町の規模も関係あるかもしれないが、不動産業者があまりなく、HP環境が整った不動産業者はほとんどないことが大きな理由と思われる。

香川県に移住する人の7割が小豆島への移住者で、借りたい（移住したい）と思う人がいるから、うまく活用につながっている。

空き家バンクにいくメリットがないと、高松の場合は不動産業者が多いから上手くいかないだろう。

→空き家バンクは、移住定住促進を目的とした制度で、リフォームなどで補助金をもらうことができる点がメリットである。

ゲストハウス若葉屋は、古い空き家をつぶして新築を建てた。当初は古い空き家を活用したゲストハウスも案が出たが、物件と条件があわず空き家活用は断念した。

空き家バンクと普通の不動産業者の違いがわかりにくいと感じる。

→線引きがあいまいになっているのがいまの現状。

くらし安全安心課では、情報を管理し、活用は関係各課で対応する

→除却と活用が同じところで考えないとダメでは？課を越えた連携を。

責任の所在を明らかに。

ハコとコンテンツをわけて考えるというのはとても大事な視点。あわせて、官民の役割についても、協働の視点を取り入れて考えることが大事になってくる。

仏生山でまちの人と関わりながら、コミュニティの活動をしている。

自分も空き家があり、それを活用して住居にしようと検討したが、耐震性や維持費の問題があり、資金面から断念した。仏生山は街並み保存の面からも空き家を活用したい想いはあるが、持ち主を把握しようとしても、一市民の立場では調査するにも限界がある。空き家を使える状態にもっていくまでに、行政の力が必要なのではないか。

福岡県八女市の「うなぎの寝床」紹介

瀬戸芸で作家さんのインスピレーションを高める作業場（空き家）は胆。

空き家で問題になるのは「①所有者が誰かわからない②相続問題③仏壇問題④電気・水道が通ってない⑤不用品の片付けができていない」この5つ。1件1件状

況が違うので、丁寧に対応している状況。

空き家になっている理由は相続問題や、仏壇問題、盆正月問題、片付け問題など様々でも、結局、現状に困っていないから空き家を放置している。空き家対策を考えるなら、空き家バンクは民間の不動産業者に任せて、コミュニティの在り方や、空き家の現状調査の方法など別の視点からアプローチしたほうが良さそう。

2 テーマ2 「地元愛を育てる！たかまつっこの育て方」

【前田寛文先生のお話】

現職を退いた後、「地域も学校」や、NPO子育てネットの理事などに関わる。

香川県教育会（会員1万人）、高松市教育会（3400人）

現職教員・OB教員・PTA・教育に賛同する人たちからなる団体

目的は地域のこどもたちの活性化。高松が好きになり、香川が好きになり、香川っていいところだねと思いながら育っていくことを目指す。地域と学校とのつながりを大事にしている。

5年間で取組んできたこと

地域の偉人をまとめた本で、地域を学べる環境作り。

子どもたちが自分の校区を自慢する新聞作り。

→今年度は県下全域の小中学校で実施している。

（県下の幼稚園～高校、図書館、コミセンなどで閲覧できる。）

不登校・いじめなどの問題もあり、開かれた学校を目指してきたが、どちらかという学校・地域・家庭が疎遠な状態になっている。難しい時代だと感じる。

～人口減少 学校の統廃合～

財務省が4万人教員を削減すると提案している。文科省は抵抗しているが。

H52人口推計

ワースト1鳥取44万1千人、島根52万1千人、高知53万7千人、徳島57万1千人、福井、山梨、佐賀、秋田、和歌山と続いて、10位が香川で77万8千人（0歳～14歳8万人、15歳～64歳40万人、65歳以上29万8千人）になると予想されている。ちなみに香川は現在96万9千人である。香川県は60万、30万人になるのではという推計もある。経験したこともないような社会がやってくるということ。

小中学校の数

S54年308校、H元年309校、H6年311校、H16年308校、H26年268校、今年度は統計が出ていないが、減る予定。

これは深刻な問題である。地域の中の学校といいながら、希薄な状態が続いている。

U40のみなさんは、今日も熱心に話されているが、みなさんは高松にどんな夢をもっているのか？高松に対する夢が一致してないと活力は生まれてこないのではと私は考える。

みなさんはそれぞれ活動していると思うが、その行く先をどう考えているか？市全体をみたときの貢献具合はどうかを考え、夢と現実とのギャップに歯止めをかけるために、結集してほしい。

議論し実践し精査していくことも大事だが、結束力も大事だと私は考える。
高松に生まれて、育ってよかったと思える、生きがい、誇りをもつ状態が必要だ。

自動販売機が社会をあらわしているのではないかと思う。
それぞれが主張し、それぞれにニーズがあり、コンパクトにまとまっている、これがみなさんでは。それぞれが光を放ち、それに応える人がいる。
電源（動かす原動力）が行政（市）では。関係調整や場の提供をするのが行政の仕事である。

お互いを認め合い、お互いの想いを追求し、その先に市民のニーズがある。
同じ夢をみないと、決していい状況にはならない。
やっていることが人を呼び込み、人をとどまらせ、ずっと住みたいと思うには、個々の達成とともに、市全体の方向性を見据えてないと活路はないのではないか。

みなさんの活動をみんなまとめてアピールする場があればいいのでは。高松こんなにすごいんだぞっていうところを見せられればと思う。

部分的にとどまらず、市全体をみることで、創造都市高松を推進していったほしい。

3 今後のグループ分け

- ・ライフスタイルの創造【真鍋康・若宮・山家・谷・甘利・末澤・永木】
- ・空き家【真鍋邦・森・木村・杉野・内海】
- ・こども・教育【広野・英・田中・鎌田・中村・中西・石川・金坂・中筋】
- ・コミュニティ【藤本・高島・児島・西成】